

食料を大切にするため

この前日本では多くの食料が捨てられていて世界では食料を好きな時に好きなように食べることができない人が多くいるとテレビでやっていた。このように世界では食料を好きなように食べられずに苦しむ人がいるのに日本では大量に食料が捨てられてしまっているのはなぜだろうか。このように食料がなくて苦しんでいる人がなぜ多くいるのだろうか。

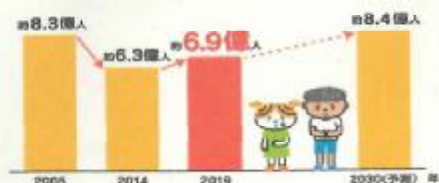
世界で食料がなく栄養不足になり健康を保つことができなくなったり状態のことを「飢餓」という。「世界の栄養不良の人々」という資料を見ると世界で飢餓に苦しんでいる人は約6.9億人いるとわかる。

このように飢餓で苦しむ人が増えていってしまったのはなぜだろうか。そして飢餓で苦しむ人に食料をどけることはできないだろうか。

飢餓について調べているとこんな活動をしている人がいた。

「フードバンクの活動」これは、まだ食べられるのに捨てられそうにな

世界の栄養不良の人々



ている食料を貧困で苦しんでいる人
人や飢餓で苦しんでいる人に食料
をどけるという活動だそう。だ。
だがこのような活動をする人たちが
いるのに年々飢餓で苦しむ人は
増えている。

自分はこのような活動をする人いる
のに飢餓で苦しむ人が増えている
てしまっているのは活動をする人
はいるが飢餓の人に配る食料がた
りないからだと思います。

なぜならこのような活動をする人た
ちは食品会社や農家の人たちか
ら食料を寄付してもらいその
食料を飢餓で苦しむ人に配ってい
るからだ。まず食品会社や農家の人
たちから食料を寄付してもらわ
ないと活動はできない。

だが今食品会社や農家の人はフード
バンクの活動には食料を寄付せず
食料を捨ててしまっているのだ。

まだ食べることができずに食料を
捨ててしまうことを「食品ロス」という
確かにフードバンクの活動というのを知
らないから食品会社や農家の人は食
料を寄付しないのかもしれない。だが
この食品ロスをなくしフードバンクの活動

に参加するということは、とても大切だと思う。
自分たちは食品ロスに対してどんなことができるだろうか。例えば、料理をするときに残った食材を捨てずに冷凍・冷蔵をしたりして食材を無駄にしないということができる。

確かに、飢餓の問題や食品ロスの問題のことなんて自分には関係ないことだと思っ人もいるかもしれない。しかし問題に対して自分たちにはできることはないか考えてみてほしい。例えば家で余った食品をフードバンクに送ったり、買い物をする時は30日中に食べる食材を買って食材を無駄にしないようにすることなど自分たちにはできることはたくさんある。こうした取り組みを自分たちが実行していくことで、飢餓で苦しむ人は減っていくのではないだろうか。